

左京区 伝統行事

平成19年1月10日

ネットワーク かわらばん

第3号 発行：左京区役所区民部総務課

左京区役所では、今年度の区の独自事業として「左京に息づく伝統文化の保存・継承と観光振興～京都創生へ左京から～」に取り組んでいます。

この事業は、次の2つを柱として進めています。

左京区内の伝統行事の保存会等の相互の連携や協力を進めるためのネットワークづくり

左京区内の伝統文化の保存・継承及び観光振興用の映像づくり

左京区内の伝統行事の 保存会等によるネットワーク会議

左京区内の伝統行事の保存会等によるネットワーク会議の第3回の会議を、12月15日に、18の保存会等の出席の下に開催しました。

今回の会議は、「材料」をテーマに、京都府立大学人間環境学部助教授の深町加津枝さんをお招きし、伝統行事と森林資源についての講演をしていただきました。

また、今年度の「左京区 大学と地域の相互交流促進事業」のひとつに選ばれた、京都府立大学の森林サークル「森なかま」の取組についての発表も行われました。

講演と発表の後、質疑応答など、情報交換・意見交換を行いました。

日時：平成18年12月15日（金）

午後2時～4時

場所：左京区役所第2会議室

参加：18団体21名（一乗寺郷土芸能保存会、一乗寺八大神社剣鉾保存会、市原ハモ八尼講中、石座神社奉賛会、大原伝統文化を守る会、上高野念仏供養踊保存会、北白川伝統文化保存会、久多花笠踊保存会、久多宮の町松上げ保存会、久多山の神・お弓保存会、鞍馬火祭保存会、大文字保存会、広河原松上げ保存会、広河原郷土芸能保存会、松ヶ崎妙法保存会、松ヶ崎題目踊・さし踊保存会、八瀬郷土文化保存会、吉田剣鉾保存会）

内容：講演「伝統文化の中での森林資源 - その特徴と今後にむけた課題」

京都府立大学人間環境学部助教授 深町加津枝さん

発表（左京区 大学と地域の相互交流促進事業の取組）「広河原松上げの『材料』の調査発表」

京都府立大学 森林サークル「森なかま」

意見交換・情報交換

左京区内の伝統行事の DVD化

左京区内で行われる京都市登録無形民俗文化財と国の指定重要無形民俗文化財の23の伝統行事をDVDにする作業を進めています。年度内の完成をめざして、現在、編集作業を行っています。

DVDは次の2種類を作成する予定です。

観光振興用
23行事のハイライトシーンを収録

保存・継承用
8行事の映像等の様相採取・制作工程を収録



裏面に
続きます

講演「伝統文化の中での森林資源 その特徴と今後に向けた課題」

京都府立大学人間環境学部助教授 深町加津枝さん

森林資源の分布や量・質，森林と人との関係が変化しており，そのため，伝統文化の継承が困難になっている。

- ・森林資源の分布：かつては松がたくさんあったが，今は枯れてしまっているところがある。雑木林，落葉広葉樹（コナラ，ブナなど）が日本全体で少なくなっている一方で，スギやヒノキなど木材生産に合った木が積極的に植えられてきた。森林資源のあり方が変わってきている。
- ・量・質：たとえばフジの蔓は，使えるものが少なくなっている。量がなくなっているものもある。
- ・森林と人との関係：以前は密接であったが，現代は希薄になっている。



丹後半島の宮津にフジ蔓を使った「フジ織り」があるが，集落は高齢化が進んでいるため，保存会が講習会を開催し，技術の継承に努めている。地域外の人に伝えていくことも伝統文化の継承につながる。地域外の人や若い人をひきつけるのは，伝統文化の中に息づく森林資源の使い方・知恵・技術である。大津の旧志賀町では，「山の神」が伝承されているが，フジ蔓が入手しにくいという問題がある。この地域でも人工林が増えて，マツ林が減った。人と山との関係が変化し，山への視線が変わってしまった。森林資源に関する新しい試みとして，環境教育の場としての利用，自然環境や生物の多様性の保全，伝統的な資源利用などを挙げることができる。

森林資源の利用は，地域の環境や生物の様々な相互作用が起こるので，幅広い意味で価値がある。すべての基本は，先人に学んで体験することである。地域に根づいて活動し，生活している人の存在が大きい。本当に小さなことでも若い人に伝えていく必要がある。地域固有の知恵や技術を生かし続けるためには，地域に暮らし続けてきた人と，関心を持って地域に入ってきた人とのかわりを持つことが重要である。

広河原松上げの「材料」調査発表

京都府立大学 森林サークル「森なかま」

松上げには，広河原近辺の多様な山林資源が使われており，松明の部分ごとに必要な特性を持つ材料が使われている。また，材料のよさが発揮できるタイミングで準備が行われている。



地域の環境を守ることがその地域の文化を守ることにつながることを実感した。

人と人との関係，そして人と山との関係が維持されている伝統行事に学ぶべきことは多い。



質疑応答，意見交換・情報交換

【石座神社奉賛会】松明に用いる竹がなくなっている。神輿は，会員以外の住民も担ぐようにしており，子ども神輿では女の子も加わっている。

【鞍馬火祭保存会】材料として，フジの根を使うが，採って見ないと使えるかどうかわからない。戦後，山がスギやヒノキに変わってきた。

【深町さん】スギ・ヒノキを木材として育てる一方で，森林そのもののあり方を考える必要がある。

【森なかま】女人禁制のため，松上げの材料に触ることができなかったのは驚きだった。

【大文字保存会】子どもが少なくなった現在，女性が絶対だめなのかということをよく考える必要があると思う。

【広河原松上げ保存会】森なかまの皆さんにはお世話になった。私たちががんばっていきたい。

